

議 事 録

厚生省心身障害研究周産期管理研究班 総会議事録

日時・場所：昭和52年9月22日（木）於ステーションホテル 竹の間

（出席者名簿）敬称略

厚生省母子衛生課	課長補佐	近藤 技 官
		川口 技 官
主任研究者（班長）	東大産婦人科	坂元 正 一
分科会長（幹事）	九大産婦人科	滝 一 郎
	昭和大産婦人科	中山 徹 也
	日大小児科	馬場 一 雄
	（代理）	井村 総 一
	弘大産婦人科	品川 信 良
分担研究者（班員）	広大原医研	岡本 直 正
	日大産婦人科	高木 繁 夫
	阪大産婦人科	倉智 敬 一
	東大産婦人科	木川 源 則
	日医大産婦人科	室岡 一
	岡山大産婦人科	武田 佳 彦
	京大産婦人科	西村 敏 雄
	（代理）	富永 敏 朗
	聖隷浜松病院 未熟児センター	小川 次 郎
	日大小児科	井村 総 一（代理）
	国立東2小児科	石塚 裕 吾
	慶応大眼科	植村 恭 夫
	（代理）	森実 秀 子
	広大産婦人科	藤原 篤
	（代理出席）	
	淀川キリスト 教病院	竹内 徹
	鹿大産婦人科	森 一 郎
		恒吉 康 男
事務・会計担当	東大産婦人科	神保 利 春

新しく発足した周産期管理班の第一回会合として行われた。

- (1) 本年度研究の進め方について、近藤（厚生省）、坂元班長より挨拶。
- (2) 研究班について、それぞれの目的・方針の説明が行われた。
- (3) 事務処理について、本部より説明。
- (4) 研究計画案が各分担研究者より述べられた。
- (5) 疫学調査の具体的進め方について質疑を行った。

早産の成因と対策に関する研究 第一回議事録

分科会長

滝

一郎

第一回早産分科会は昭和52年11月12日大阪市において開催された。本部より東大木川助教授出席し、会計報告、研究報告書について詳細な説明があり、その後各班員から現在までの研究成果と今後の研究方針についての報告があり、質疑が行われた。また、本研究班の性格から分科会全体としてどのような点を重点的に研究し、3年間に成果をあげるべきかという点についても討議および説明がなされた。

第一回分科会出席者名簿

氏名	所属
佐藤和雄	東京大学産婦人科
木川源則	〃
吉田啓治	東京医科大学産婦人科
吉田孝雄	日本大学産婦人科
田根培	〃
倉智敬一	大阪大学産婦人科
竹村晃	〃
今井史郎	〃
富永好之	鳥取大学産婦人科
竹村喬	大阪通信病院産婦人科
岡本直正	広島大学原医研
足高善彦	神戸大学産婦人科
滝一郎	九州大学産婦人科
片瀬高	〃
久永幸生	九州大学医療短大部

早産の成因と対策に関する研究 第二回分科会議事録

出席者名簿

氏名	所属	氏名	所属
佐藤和雄	東京大学産婦人科	森川肇	神戸大学産婦人科
木川源則	〃	岡本直正	広島大学原医研
柴田次郎	〃	佐藤幸男	〃
安永洸彦	〃	日高椎登	〃
相馬広明	東京医科大学産婦人科	秋本尚孝	〃
田渕保己	〃	滝一郎	九州大学産婦人科
吉田啓治	〃	瓦林達比古	〃
清川尚	〃	片瀬高	〃
向田利一	〃	久永幸生	九州大学医療短大部
田根培	日本大学産婦人科	荒川公秀	九州大学産婦人科
吉田孝雄	〃	郡征一郎	〃
高木繁夫	〃	藤田寿一	〃
春山登	〃	吉田茂則	〃
松本寛	〃	梅津隆	〃
青木嶺夫	大阪大学産婦人科	岸川忠雄	〃
富永好之	鳥取大学産婦人科	蜂須賀正光	〃
伊藤隆志	〃	原賢治	〃
竹村喬	大阪通信病院産婦人科		

第二回早産分科会は昭和53年2月10日、福岡市において行われた。分科会の初めに事務的面の質疑が東大木川助教授を交えて行われた。

ついで疫学部門，内分泌生化学部門，子宮収縮部門，病理学部門に分けて，それぞれ竹村 喬部長，高木繁男教授，滝 一郎教授，岡本直正教授の司会で論議された。その後，とくに周産期管理班全体として行う疫学調査の原案について討議された。発表された演題はプログラムのごとくである。

周産期管理班 第二回 早産の成因と対策に関する研究分科会

プ ロ グ ラ ム

場 所：福岡市博多区網場町，第一勧銀ビル内三鷹ホール (TEL:092-271-3038)

日 時：昭和53年2月10日(金) 午後1時より

※スライドは一面のみ用意致します。

本年度報告書3部および分科会長報告用抄録(1部)を当日ご持参下さいますようお願い致します。
発表の順序は変更することがあります。

疫 学 部 門

1. 大阪地区数病院における早産の疫学的調査
竹村 喬, 浦上 満男(大阪通信病院)
茨木健二郎, 中川 裏(愛染橋病院)
高山 克己(大阪警察病院)
河田 優(大阪労災病院)
西野 英男(大手前病院)
美並 義博(八尾市民病院)
2. 未熟児出生の原因に関する疫学的調査
竹村 喬(大阪通信病院)
3. 早産の疫学調査に関する基礎的検討
青木 嶺夫, 倉智 敬一(阪大産婦)

内 分 泌 生 化 学 部 門

4. 早産因子としてのRh 不適合, とくに羊水中各種parameterの分析
久永 幸生(九大医短部)
荒川 公秀, 藤田 寿一, 吉田 茂則, 郡 征一郎(九大産婦)
5. 頸管軟化に及ぼすDHA-Sの影響(特に最終産物E₂の作用機序を中心)
東條 伸平, 望月 真人, 足高 善, 森川 肇(神大産婦)
6. Corticoidと6 α -OH steroidによる早産, 未熟児の内分秘学的検討
高木 繁夫, 吉田 孝雄, 田 根培, 坂田 寿衛, 春山 登, 松本 寛(日大産婦)
7. Esterol 測定による母体の病態別胎児の予備能とその測定意義
高木 繁夫, 吉田 孝雄, 田 根培, 坂田 寿衛, 春山 登, 松本 寛(日大産婦)

子 宮 収 縮 部 門

8. ラット妊娠中期子宮におよぼすカテコラミンの効果
滝 一郎, 片瀬 高, 瓦林 達比古(九大産婦)
9. 外測子宮収縮記録に関する研究
伊藤 隆志(鳥取大産婦)
10. 外測法による妊娠中期の子宮収縮検出について(特に人工妊娠中絶ならびに自然流産の子宮収縮曲線)
富永 好之(鳥取大産婦)
11. 切迫早産とPGF₂ α 尿中代謝物
木川 源則, 佐藤 和雄, 安永 洸彦, 柴田 治郎(東大産婦)

病 理 学 部 門

12. 早産胎盤の病理学的研究
相馬 広明, 吉田 啓治, 清川 尚, 向田 利一, 田淵 保巳(東京医大産婦)
13. 早産に関する病理学的研究
その1. 資料の解析
岡本 直正, 佐藤 幸男, 日高 椎登, 秋本 尚孝(広大原医研)
14. 早産に関する病理学的研究
その2. 死産との比較検討
岡本 直正, 佐藤 幸男, 日高 椎登, 秋本 尚孝(広大原医研)

胎児発育遅延の成因と対策に関する研究班 第一回研究会議事録

日 時 昭和52年12月1日 午後3時～6時

会 場 東京・湯島会館

出席者

- | | |
|---------|--------|
| ○昭和大学 | ○国立大蔵 |
| 中山 徹也 | 堤 紀夫 |
| 荒木 日出之助 | 鳥海 達雄 |
| 矢内原 巧 | ○順天堂大学 |
| 石田 珠明 | 高田 道夫 |
| 瀬尾 文洋 | ○奈良医大 |
| ○九州大学 | 山口 龍二 |
| 荒川 公秀 | ○日本医大 |
| ○東京大学 | 荒木 勤 |
| 木川 源則 | 力武 義之 |
| 神保 利春 | ○厚生省 |
| 佐野 亨 | 川口 雄次 |

胎児発育遅延の発生要因の究明ならびに早期診断基準設定を目的とした本研究班の本年度の研究進行状況を次に記載する如く各施設より発表するとともに今後の研究方向について協議した。

I. SFDの診断基準に関する研究

1) 胎盤産生ホルモンによる診断基準の設定 (中山徹也)

胎児胎盤あるいは胎盤機能の面からSFDの早期診断基準を設定する目的で、尿中・血中Estrogen, 尿中Pregnanediol, 血中Progesterone, 血中HPLなどを測定した。その結果、SFDの診断に関してはEstrogenよりも血中prosesterone, HPLのほうがすぐれていることが判明したので、この方面の詳細について検討する。

2) 子宮底長曲線ならびに母体血清蛋白分画によるSFDの予測 (荒川公秀)

子宮底長増加曲線を6型に分類し、これとSFD発生の要因になりうる母体因子、胎盤因子について検討した結果、重症妊娠中毒症、風疹合併妊娠について意義を認めた。また母体血清蛋白分画によるSFD診断価値について検討する。

II. SFDの要因と対策に関する研究

1) SFDの統一基準についての提言 (木川源則)

SFDを論ずる場合、基準統一が重要である。討議の結果、船川値を基準とすることとした。

2) 胎盤機能とSFDの発生について (山口龍二)

胎盤機能の指標となるHSAP, LAP, CAP, HPL, Sp-1について各々の増加予想曲線を設定し、これと異常妊娠との関係を検する。

3) メトヘモグロビン血症による実験的胎児発育遅延に関する研究 (荒木 勤)

亜硝酸ソーダ投与Met Hb血症により発育遅延胎児を作成し検討する。

4) SFDの疫学的調査 (堤 紀夫)

SFDの発生頻度ととくに極小未熟児の産科的背景について検討する。

胎児発育遅延の成因と対策に関する研究班 第二回研究会議事録

日 時 昭和53年2月1日 午前10時30分～午後4時

会 場 東京・湯島会館

出席者

○昭和大学

中山 徹也
荒木 日出之助
矢内原 巧
石田 珠明
丸山 正次

○九州大学

荒川 公秀
久永 幸生

○東京大学

木川 源則
佐野 亨

○国立大蔵

堤 紀夫
鳥海 達雄

○順天堂大学

高田 道夫
長谷川 進

○奈良医大

山口 龍二

○日本医大

荒木 勤
川崎 尚和

○厚生省

中原 俊隆

各施設より本年度の研究成果が発表された。

I. SFDの診断基準に関する研究

1) 胎盤産生ホルモンによるSFDの診断基準に関する研究 (中山徹也)

尿中血中E, 尿中Pd, 血中P₄, HPLを検した結果, 尿中Pd, 血中P₄, HPLがEより診断的には優れた資料であることが判明した。

2) 子宮底長増加曲線並びに母体血清蛋白分画によるSFDの予測 (荒川公秀)

子宮底長増加曲線とSFDの要因である胎盤因子, 母体因子を検すると本曲線の分析はSFD予測に重要な指標となる。母体血清蛋白分画は今後の検討を要する。

II. SFDの要因と対策に関する研究

1) 母体諸現象と児頭大横径よりみたSFDの予測 (木川源則)

児体重予測には子宮底長およびBPDが重要である。長期予測式として

$$Y = 86.1X_1 + 351.9X_2 - 2886 \quad (X_1 \text{ 子宮底長} \quad X_2 \text{ BPD})$$

の式をうることができた。AFDの予測は良好であるが, SFDの予測はさほど高精度ではない ($r=0.45$)

2) 胎盤起源物質の個別的予想値式による胎盤機能診断 (山口龍二)

HSAP, LAP, CAP, HPL, SP-1の増加予想曲線を作成した。この曲線は個体特有であって, 正常妊娠はほとんどこの曲線に一致するが異常妊娠(中毒症, SFD)は曲線よりはずれるものが多い。

3) SFDの要因に関する研究 (高田道夫)

SFDの母体環境, 胎児発育patternを分析し, さらにSFDの基礎的分析として栄養代謝因子,

子宮環境因子、羊水分析の胎児発育に対する影響を検した。その結果、SFDには遺伝的素因の他に、母体代謝異常、胎児への栄養供給障害、胎児の代謝異常など色々なものが存在することが判明した。

4) SFD発生要因としての妊娠中毒症の意義 (堤 紀夫)

疫学的調査の結果、妊娠中毒症は非中毒症に比べてSFDの発症が高頻度である。特に重症中毒症、早期発症型に多い。またSFD児の生後障害では仮死、黄疸、哺乳障害が多く、行動発育では一般に音・光に対する「なれ現象」が悪い。

5) メトヘモグロビン血症による実験的SFD並びにMaltose 治療法の価値の検討 (荒木 勤)

NaNO₂ 投与Met-Hb 血症によって高頻度に発育遅延仔を作成することができる。NaNO₂ 投与の胎盤には乏血、fibrinoid変性、絨毛間血栓を認める。ヒトの児体重と血中Met-Hb 濃度の間には相関を認める。

Maltose 投与により家兎胎仔体重が増加する。Maltose 投与によるradioactivity は吸収・排泄が緩徐である。

周産期管理に関する母児環境的研究 第一回分科会議事録

日 時：昭和52年12月8日

場 所：私学会館

出席者(順不同)

富 永 敏 朗 (京大)	室 岡 一 (日医大)
千 村 哲 郎 (山形大)	荒 木 勤 (")
山 辺 紘 猷 (東北大)	川 崎 尚 和 (")
武 田 佳 彦 (岡大)	北 島 米 夫 (")
金 岡 毅 (福岡大)	越 野 立 夫 (")
堀 口 貞 夫 (築地産)	諸 橋 侃 (慶応大)
鈴 木 重 統 (北大)	長 内 国 臣 (北里大)
兼 子 和 彦 (埼玉大)	川 口 雄 次 (厚生省)
坂 元 正 一 (東大)	
桑 原 慶 紀 (")	
神 保 利 春 (")	
新 居 隆 (")	
岡 井 嵩 (")	

(議事録)

坂元分科会長より挨拶と本年度の研究目的・方針の説明がなされた。それに応じて、各研究機関から本年度研究予定が述べられた。

1. 日本医大第2(室岡)：“母児のいづれかに高い確率で危険が予測される妊娠”という、high risk妊娠の定義についての提案と説明があり、討論の結果、家族歴、既往歴、生殖に関する既往歴、今回妊娠経過をチェックポイントとし、過去及びこれからの統計成績を積み上げていくという方針が

たてられた。

2. 埼玉医大（兼子）：本年度は双胎について検討する旨の方針が述べられた。
 3. 東大（神保）：high risk妊娠と児の予後について東大での computer による成績から、risk factor とその重み付けを考える方針である。
 4. 築地産院（堀口）：築地産院においても同様の調査を行う予定。
 5. 慶大（諸橋）：Bモード、電子スキャン、ドップラについての安全対策の必要が述べられた。
 6. 東大（桑原）：分娩時の fetal distress の診断に関して連続組織 pH 測定の基礎と臨床応用を中心に検討する。
 7. 東北大（山辺）：頸管硬度計、分娩進行度と distress の関係について検討する。
 8. 北里大（長内）：全国主要機関における産科麻酔アンケートをすゝめ、その結果からの現状を把握した上で、母児安全対策をすゝめたい。
 9. 岡山大（武田）：糖代謝を中心に対策と治療の研究をすゝめる。
 10. 山形大（千村）：アミノ酸を中心に検討を加える。
 11. 北海道大（鈴木）：蘇生後の児の DIC を中心に血液凝固学的検討をすゝめる。
 12. 福岡大（全岡）：代謝とカテコラミン、pH との関係から latent fetal distress の対策と治療を考えたい。
 13. 京都大（富永）：疫学調査をすゝめるため、今年度は、近畿32機関約50,000例の分娩統計成績をまとめたい。その結果により、疫学調査の方式を決めたい。
- 以上の如く、各機関から初年度方針が述べられ、了承された。

なお、各小グループで頻りに打合せ会を開くことにより、成績や結論の片寄りを防ぐ方針が決定された。

周産期管理に関する母児環境的研究 研究打合せ会議事録

日 時：昭和53年2月15日（水）

場 所：東大産婦人科会議室

出席者

坂元正一（幹事）、木川源則（班員）、
長内国臣、一条元彦、諸橋侃、神保利春（以上研究協力者）
西島正博、桑原慶紀（以上協同研究者）

分娩時の母児安全管理に関する研究について各機関の研究進行状況と今後のすゝめ方について討論が行われた。

周産期管理班 武田班打合せ会 議事録

日 時：昭和53年2月16日(木) 午後1時～3時

場 所：東大産婦人科第2会議室

出席者

坂元正一(幹事), 武田佳彦(班員)

千村哲郎, 鈴木重統, 金岡毅(以上研究協力者)

(議事録)

fetal distressの対策に関する研究について、各機関の研究進行状況の報告があり、それぞれの考え方について意見交換を行った。

周産期管理に関する母児環境的研究 研究打合せ会 議事録

日 時：昭和53年2月16日(木) 午後3時～7時

場 所：東大産婦人科会議室

出席者：

神保利春, 桑原慶紀(以上東大), 兼子和彦(埼玉医大),

堀口貞夫(築地産院), 室岡一, 荒木勤, 松延康泰

舟木普次郎, 越野立夫(以上日医大), 富永敏朗(京大)

(議事録)

第一回分科会において、high risk factorを検討するためのmeetingを行うよう勧告があり、この日、室岡教授の司会の下に、high risk factor の検討を行った。富永助教授(京大)の整理されたrisk factorについて、討論が行われ、討論を通じて得られたrisk factorについて、次回分科会で検討することになった。

周産期管理に関する母児環境的研究 第二回分科会

日 時：昭和53年2月25日(土) 午後1時～午後6時

場 所：私学会館

出席者：

長内国臣(北里大)

岡井崇(東大)

西島正博(〃)

神保利春(〃)

金岡毅(福岡大)

桑原慶紀(〃)

兼 子 和 彦 (埼玉医大)	名 取 道 也 (慶応)
武 田 佳 彦 (岡山大)	富 永 敏 朗 (京大)
千 村 哲 朗 (山形大)	一 条 元 彦 (東北大)
橋 詰 晴 敏 (")	室 岡 一 (日医大)
堀 口 貞 夫 (築地産院)	川 崎 尚 和 (")
鈴 木 重 統 (北大)	松 延 泰 康 (")
新 居 隆 (東大)	越 野 立 夫 (")

(議事録)

1. high risk妊娠の周産期管理に関する研究

- ① high risk妊娠の定義について室岡教授の示された日産婦用語問題委員会案について検討が加えられた。
- ② high risk factorについては、京都大富永助教授による最終整理案について説明及び質疑が行われた。案としてはほぼ了解に達したが、その具体的なとりあつかいは今後に残された。すなわち、risk factorの重みづけや、factorのそれぞれに関する実態調査の必要を認める声は多かったが、その具体的調査の方法となると困難な点が多く、今後は、これらのfactorを考慮に入れた調査を、各機関がそれぞれ行うことで意見が一致した。
- ③ 合併症妊娠の統計成績 糖尿病合併妊娠については、京大西村班員から報告があり、また、双胎については兼子助教授(埼玉医大)より報告があった。
- ④ 分娩統計(high riskの頻度とも関連して)について、統計処理上の問題点、コンピュータ使用上の問題等が、東大(神保・桑原)、築地(堀口)、日医大(室岡)より提起され、討論を行った。

2. 分娩時の母児安全管理に関する研究

分娩室の安全性に関する検討(慶大 諸橋)、fetal distressの診断基準(東大 桑原、慶大 諸橋)、分娩管理法としての頸管硬度評価、分娩進行度評価のこころみ(東北大 一条)、産科麻酔に関する全国実態調査成績の中間報告(北里大 長内)が報告され、討議を行った。

3. fetal distressの対策に関する研究

アミノ酸、5炭糖の投与効果、異常陣痛抑制法の検討(山形大 千村)、DICとdistressed baby、新生児におけるDICの診断基準について(北大 鈴木)、代謝系とカテコラミン・pHの問題、生化学的分析(福岡大 金岡)、糖代謝系の基礎的検討成績(岡山大 武田)の研究報告を順次行った。

4. high risk妊婦の予後に関する研究

京大 西村班員(代理 富永敏郎)より、過去5年間の32施設、49,000例の疫学調査のうち、調査を終えた糖尿病及び甲状腺疾患について成績が発表された。

心身障害防止のための周産期管理に関する研究

「新生児・未熟児の管理に関する研究」

議 事 録

日 時 : 昭和53年2月28日 午後4時～7時

場 所 : 東京, ホテル国際観光

出席者

日本大学: 馬場一雄, 井村総一, 高橋 滋, 峯 真人

浜松聖隷病院: 小川次郎, 判治康彦

慶応大学: 植村恭夫

国立東京第二病院: 石塚祐吾

淀川キリスト教病院: 竹内 徹

広島大学: 宮岡繁樹

厚生省: 須賀康生

東京大学: 神保利春

司 会 馬 場 一 雄

1) 呼吸管理に関する研究(小川次郎)

経皮的酸素分圧測定装置の精度と臨床使用上の限界, 呼吸障害児の予測, アルカリ療法の副反応に関する実験的研究についての研究報告があった。

2) 体液管理に関する研究(馬場一雄)

輸液に伴う高血糖, 極小未熟児に対する輸液量の問題, カルシウム動態, 尿滲透圧に関する研究報告があった

3) 児の予後に関する研究(石塚祐吾)

新生児仮死, 極小未熟児, IRDS児, 先天性心疾患の予後に関する研究報告があった。

4) ハイリスク児の長期予後に関する研究(竹内 徹)

高ビリルビン血症児の長期予後に関する研究報告があった。

5) 未熟児網膜症に関する研究(植村恭夫)

酸素以外で起る網膜症の実験モデル作成, II型網膜症の発生状況およびその推移, 発生に関する実験的研究,

予後, 光凝固例の予後に関して研究報告があった。

6) 院内感染防止に関する研究(藤原 篤)

羊水の抗菌性, 新生児の病原細菌保菌率とその伝播

要因, 新生児の感染防禦能に関しての研究報告があった。

以上のように各演題毎に活発な意見の交換を行い, 最後に日大馬場より, 分科会会長として今後の方針と総括的意見が述べられた。

心身障害防止のための周産期管理に関する研究

新生児・未熟児の管理

1. 呼吸管理に関する研究

議 事 録

日 時 : 昭和53年2月18日 午後5時～9時

場 所 : 東京 ルビーホール

出席者 :

聖隷浜松病院:小川次郎, 柴田 隆, 判治康彦

国立岡山病院:山内逸郎

日本大学:井村総一

都立築地産院:多田 裕

関西医科大学:岩瀬師子, 杉本健郎

名古屋市立大:小川雄之亮

司 会 小川次郎

1. 呼吸障害におけるアルカリ療法の副反応に関する実験的研究(杉本健郎)
2. 呼吸障害例の分析, 胸部インピーダンス法による呼吸障害の早期発見(多田 裕)
3. 経皮的酸素分圧連続測定に関する検討(小川次郎)
4. 経皮的酸素分圧連続測定に関する検討(井村総一)
5. 経皮的酸素分圧測定装置の精度に関する検討(山内逸郎)

新生児・未熟児の管理

2. 体液管理に関する研究

議 事 録 (I)

日 時 : 昭和53年2月28日 午後1時～4時

場 所 : 東京, ホテル国際観光

出席者

日本大学:馬場一雄, 井村総一, 高橋滋, 峯 真人

昭和大学:奥山和男, 滝田誠司, 須永進

都立築地産院:村田文也, 中村 敬

国立病院医療センター:坂口房子, 保母光彦

国立小児病院:内藤達男, 河野寿夫

厚生省:須賀康正

(司会 馬場一雄)

1. 特発性呼吸窮迫症候群に合併してみられるPDAと輸液量に関する検討(馬場一雄)
2. 初期維持輸液に伴ってみられる高血糖とその予後に関する検討(馬場一雄)
3. 未熟児・新生児の尿滲透圧に関する検討(坂口房子)
4. 未熟児の初期維持輸液に関する検討(村田文也)
5. 新生児のカルシウム動態に関する検討(奥山和男)
6. 極小未熟児の輸液と生化学的パラメーターの変動に関する検討(内藤達男)

以上の施設より各々分担課題についての研究成果の発表があり、活発な討議が行われた。

議 事 録 (II)

日 時 : 昭和52年12月10日

場 所 : 東京, ホテル国際観光

出席者 :

日本大学: 馬場一雄, 井村総一, 高橋 滋

昭和大学: 滝田誠司

都立築地産院: 村田文也, 中村 敬

国立病院医療センター: 坂口房子, 保母光彦

国立小児病院: 内藤達男

司 会 馬場一雄

研究内容の打合せ, 以後の方針について討議を行った。

「児の予後に関する研究」班

第1回打合わせ会議事録

班員 石塚祐吾記

開催日時：昭和52年9月17日、午後4時～8時

開催場所：東京都中央区明石町6-24

都立築地産院会議室

出席者：

班員（国立東京第二病院）石塚祐吾

研究協力者（都立築地産院）藤井とし

同（神奈川県立こども医療センター）小宮弘毅

同（名古屋市立大学小児科）小川雄之亮

同（聖マリア病院新生児科）橋本武夫

陪席者（都立築地産院）村田文也

同（同）多田裕

同（同）中村敬

同（国立東京第二病院）黒川叔彦

（以上9名）

議事内容：

5施設で共同して行なえる研究の主題を決めたいとはかり、研究協力者のほかに陪席者の意見もきいたうえ、昭和52年度は「新生児仮死」をとりあげることになり、細部について協議した。その結果いずれ班員が各症例別の調査票を作成し各施設がその中に必要事項を記入し班員のところに送ることまで決めた。

各個研究についても各自の構想をきいた。

中間協議会議事録

班員 石塚祐吾記

開催日時：昭和53年2月17日、午後3時～5時

開催場所：国立東京第二病院会議室

出席者：班員（国立東京第二病院）石塚祐吾

研究協力者（都立築地産院）藤井とし

同（神奈川県立こども医療センター）小宮弘毅

議事内容：現在までに集った調査票をもとに、班員が一部集計したうえで試作した図表について検討を行い、さらに詳しい成績を知りたい個所、棄却すべき項目などを決め、他の研究協力者に手紙でさらに協力を求めることにした。

最 終 協 議 会

班員 石塚祐吾 記

開催期日：昭和53年2月25日 午後4時～8時

開催場所：名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄

名古屋市立大学病院会議室

出席者：班員（国立東京第二病院） 石塚祐吾
（都立築地産院） 藤井とし
（神奈川県立こども医療センター）小宮弘毅
（名古屋市立大学） 小川雄之亮
（聖マリア病院） 橋本武夫
以上5名

議事内容：共同研究としてとりあげた「新生児仮死の予後」についていままでの成績を集計した結果について、討論を行い考察および結論について合意に達した。この結果を班員石塚がまとめ2月28日の「新生児未熟児の管理に関する研究」班会議において報告することにした。

各個研究4題についても討議を行い、採用し成績を同時に報告することにした。

厚生省心身障害研究

周産期管理班（未熟児網膜症）班会議プログラム

- （日時） 昭和53年2月4日（土）
午前10:00～午後4:00
（場所） 慶応義塾大学病院第2会議室

座長 馬嶋昭生教授

1. 「Ⅱ型網膜症のその後の発生状況について」 森実秀子
2. 「最近のⅡ型網膜症について」 大島健司

[討 論]

座長 植村恭夫

3. 「未熟児網膜症，光凝固治療例の遠隔成績」 永田誠
4. 「未熟児網膜症の発生と予後に関する研究」 馬嶋昭生

[討 論]

座長 永田誠博士

5. 「未熟児網膜症の病態に関する研究」 植村恭夫

[討 論]

6. 今後の研究のすすめ方

7. 事務連絡

周産期管理班疫学部門 第一回合同打合せ会

日 時：昭和52年12月2日 午後4時～7時

場 所：私学会館

議 題：周産期管理班の疫学調査の具体計画について

出席者：

坂元正一（班長） 品川信良（幹事）
森一郎，倉智敬一，西村敏雄（代理出席 富永敏朗 以上分担研究者），真木正博，竹村喬（以上研究協力者）
川口雄次（厚生省母子衛生課） 木川源則，神保利春，箕浦茂樹（以上本部）

（議事録）

周産期管理班では、早産の疫学的研究については阪大倉智教授，high risk妊婦の予後に関しては京大西村教授，妊産婦死亡については弘大品川教授がそれぞれ世話人となって疫学調査を行う予定であるが、これらの疫学調査がバラバラに行われたのでは参加機関の負担が増大するだけと考えられたため、疫学部門は協力して調査を進める必要上、打合せ会形式で集会をもつこととした。

厚生省川口技官の疫学部門に対する要望のあと、班長挨拶に引きつづき、各部門担当者から具体計画についての案が示され、それぞれについて質疑を行った。

なお、本部からの要望事項としては、①早産の疫学調査に関しては、早産（24週以後、できれば20週以後）の頻度、原因、児の予後と、20週以後の児体重増加曲線を出す。②high risk妊婦の予後については、high risk妊婦のfollow up systemの確立。③妊産婦死亡の疫学調査に関しては、各機関から、又は地区における過去5年間の妊産婦死亡の実態調査を行い、頻度、原因、剖検所見、予防対策の可能性や登録システムの開発などを考える。等が出された。

周産期管理班疫学部門 第二回打合せ会

日 時：昭和53年2月17日（金） 午後4時～午後7時

場 所：私学会館

出席者：

品川信良（幹事），坂元正一（班長）
森一郎，西村敏雄，倉智敬一，木川源則（以上班員）
真木正博，竹村喬（以上研究協力者）富永敏朗，神保利春
竹村晃（以上協同研究者）須賀技官（厚生省）

（議事録）

1. 早産の疫学（竹村 喬，竹村 晃）

Pilot study では10,210例中314例の早産についての統計成績がのべられた。来年度からの

本格的調査にあたり、20週以後又は500グラム以上の症例についてもできるだけ集めることが要望された。

2. high risk妊婦のfollow up (富永敏朗)

Pilot studyの結果、及びhigh risk factorの整理に関して報告があった。これらのなかからいくつかをとり出し重点調査する方向となる。

3. 妊産婦死亡の疫学的検討 (品川信良, 森 一郎, 真木正博)

重症例の実態調査表, 死亡等調査表, 剖検集報よりの母体死亡のリストアップ, 里帰り分娩の問題について報告があった。

周産期母児管理班 幹事会評価委員会議事録

日 時：昭和53年3月3日 14:00~17:00

場 所：東京ステーションホテル 桜の間

出席者名簿

主任研究者	坂 元 正 一
幹 事	滝 一 郎, 中 山 徹 也
	品 川 信 良, 馬 場 一 雄 (代理出席 井 村 総 一)
評 価 委 員	小 林 隆
本 部	木 川 源 則, 神 保 利 春
厚 生 省	近 藤 健 文 課長補佐 須 賀 康 正 技官

議 事

1. 主任研究者挨拶 坂 元 正 一
2. 厚生省挨拶 近 藤 健 文
3. 分科会報告
 - 早産の成因と対策 滝 一 郎
 - 胎児発育遅延 中 山 徹 也
 - 周産期管理 坂 元 正 一
 - 新生児未熟児 馬 場 一 雄
 - 妊産婦死亡の対策 品 川 信 良
4. 研究の評価 小 林 隆
5. 来年度研究方針協議
6. 閉会の挨拶

初年度研究報告と評価委員会を兼ねて上記スケジュールで開催された。

各分科会報告の詳細は、本報告書を参照されたい。初年度のため、研究発足が遅れ、経過報告にとどまるものが多いこと、班としての結論にまではっていないものが多いことは止むを得ないと考えられ、次年度引きつづき研究を推進することで意見は一致した。

小林 隆評価委員より、従来にくらべてより直接的な問題のとり上げ方が目立ち、それぞれについて一步一步かためていった方が新たな創造につながると思うとの評価をいただいた。